千刈狸の呟き

～ 時代は現在進行形 ～

山　狸

今や時代は新型コロナウイルス。

今年は１月の感染者報告から、あっという間に４月から５月の緊急事態宣言、そしてもうすぐ年末と「新型コロナウイルス」一色であった。

自粛期間中、いつもの新聞は一面、死亡欄、TV欄で終わるのだが、意外に論評が興味深かった。スポーツ、イベント記事が無いので充実していたのであろう。

キーワードでいうと、「新しい社会作りの機会に。斎藤幸平先生」、「最悪を想定しない国民性：日本人は言霊を大切にしすぎ事実を語るのが下手である。内田樹先生」、「不要不急産業の脆さ露呈：快楽産業の危うさ。昭和の時代にこれほどの数のイベントはなかった。必要火急の不足、生活基盤産業の見直し。佐伯啓思先生」

さらに、目の当たりにした大変な状況、海外渡航者99.9％の減少、観光、宿泊、外食、イベント産業の打撃。

ウイルスとの戦争と評した海外のリーダーもいたが、戦争中なら、必要不可欠のこと以外は難しくなるのがよくわかる。明治維新、第１次世界大戦・スペイン風邪の流行期、太平洋戦争・第２次世界大戦等に似ているかもしれない。

今回退陣された首相も毎日、予測がつかない、しかも前例がほとんどない試合に臨んでいるようで大変だったと思う。何か政策を出せば、不備を突かれ、出さなければ怠慢といわれる。「今だけ、金だけ、自分だけ。」の場当たり対策と批判も厳しい。

ある明治維新のドラマのセリフに「時代の真っ黒な渦に巻かれると、いったい自分がどこにいて何が正しいのかが、わからなくなります。」というのがあった。渦中とはこういうことなのだろう。

人口が密集する都会の危うさ、人口が密集してない田舎の差別の厳しさ。いろいろなことを見直す良い機会にはなったと思う。

まだまだ、現在進行形で油断できない。

ただ、終わるときはいつかくるだろうから、後に評価は出るだろう。戦後政治を語った渡邉恒雄のような論客の解説も聞けると思う。できるだけ、そのころの視点から「まあ、自分はよくやったじゃないか。」といえるようにしたいものだ。

まずは、自分自身が生き残り、自分の周りの大事にしている存在（家族、勤務先、組織、会社等）を存続させることが第一義であろう。故　瀧本哲史氏のいうところの「正解ではなく最善解をさがそう。」が参考になりそうである。

あとどれ位かかるかわからないけれど、新型コロナウイルスが終息する時を体験できるように、山の中で忍んでいきたい。